

社会科学習指導案

平成 27 年 5 月 7 日（木曜日）～ 6 月 5 日（金曜日） 4 年〇組 指導者

1 単元名 「住みよいくらしとごみ」

2 考察

(1) 教材

① 学習内容：学習指導要領の位置付け

・第 4 学年 2 内容(3)

・地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のこと（「飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」）を見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考える。

② 主な伸ばしたい資質・能力

・ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業への関心

・生活の中での取組にごみの減量やリサイクルなど学習したことを生かそうとする意欲

・ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活の維持と向上に役立っていることを考える力

・ごみの減量や資源の有効利用のために、生活の中で自分たちにできることを判断する力

・ごみの処理や有効利用に関わる施設を調査・見学したり、統計資料を活用したりして必要な情報を集める力

・ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業が計画的、協力的に進められ、自分たちの生活や産業を支える大切な取組であることを理解する力

③ そのために必要な指導・学習活動

・児童の気付きや課題意識を基に、単元を貫く学習課題を設定する。

・「群馬県のごみ処理の概要やごみ処理の課題の資料」を活用し、群馬県のごみ処理の特色や課題を調べ、理解する。

・「ごみ処理に対する群馬県の取組の資料」を活用し、ごみ処理に向けた取組をしなかったら自分たちの暮らしはどうなるかを考える。

・「ごみを減らすために自分にできる取組の資料」を活用し、ごみを減らすための取組のよさや大変さを考える。

・単元を通して学んだことを基に、分けて集められたごみや資源が、どのように処理・再利用されているかを考え、単元を貫く学習課題についてまとめる。

④ 今後の学習の活用

・「昔の暮らし」の学習において、身の回りの古い道具には昔の人の生活の知恵や工夫が込められており、道具の変化とともに地域の暮らしも変化し、便利になってきたことを今の自分たちの生活とのつながりを意識しながら学習を展開する。

(2) 本単元に関わる児童の実態及び指導方針（男子〇名 女子〇名 計〇名）

① 既習の学習内容

・前単元「くらしをささえる水」において、生活に欠かせない水がどこでどのようにしてつくられ、送られているかを調べ、飲料水を確保するための対策や事業は、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを学習している。

② 本単元に関わる児童の実態及び指導方針

・児童は、前単元「くらしをささえる水」において、生活にとって必要な飲料水の確保についての学習をしている。浄水場の見学を通して、水がどこでどのようにしてつくられ、送られているかを理解することができた。しかし、学習のまとめの作文を見ると飲料水の安定供給のために川の上流、中流、下流に

住んでいる人々の果たす役割について書いている児童は少なかった。このことから、飲料水の確保が、他地域の人々の協力を得ながら成り立っていることを十分考えられている児童は少ないと言える。

- ・問題解決的な学習では、意欲的に調査活動に取り組むが、社会的事象の事実を把握するだけにとどまり、事象相互のつながりを明らかにする段階までには至っていない。
- ・追究する過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と学習に関連する群馬県の概要や課題、群馬県として進めている取組の資料を活用し、群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることにより、社会的事象が持つ多様な面に気付かせる。
- ・追究する過程において、地域社会のために地域の人々が行っている取組の資料を活用し、自分たちの住んでいる地域のために自分にできることを考え、社会的事象を異なった立場から考察させる。
- ・考え・まとめる過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象を調べて分かったことと、資料集「ぐんまくん」を活用しながら考えたことを基に、特色としてどのようなことが見いだせるかをまとめ、グループで意見交換することにより、社会的事象の特色を広く捉えさせる。

3 研究との関わり

協力校の児童の学習状況を見ると、調べ学習には意欲的に取り組むが、社会的事象相互がどのようにつながっているかを適切に説明できない児童が多く、調べ学習がただ社会的事象の事実を把握するだけになってしまい、社会的事象の特色を解釈するまでには至っていない。知識の事実認識で終わらずに、社会的事象相互を比較・関連付けながら、どのようにつながっているか説明し、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めることが重要である。

そこで、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を育むために、問題解決的な学習に群馬県の統計や行政の取組などを知る具体的な資料を活用し、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考える活動を取り入れていくことが大切であると考え。これらを通して、特色としてどんなことが見られるかを探っていくことができるようにする。社会的事象について調べたり考えたりしたことのつながりを説明しながら特色をまとめることにより、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めていくようにする。

以上のように本単元において、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるために、資料集「ぐんまくん」を活用しながら、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることは有意義なことだと考える。

4 単元の目標

ごみの処理や有効利用と自分たちの生活や産業との関わりや、これらに関わる対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの減量やリサイクルなど自分たちに協力できることを考え、進んで取り組もうとする。

ごみの処理や有効利用の諸活動から学習問題を見だし、施設・設備を調査、見学したり資料を活用したりして調べたことを作品にまとめるとともに、これらの対策や事業が地域の人々の健康の維持向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する。

5 指導計画（全 13 時間予定）

評価 規 準	関心・意欲・態度	ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業に関心をもち意欲的に調べるとともに、ごみの減量やリサイクルなど、生活の中での取組に学習したことを生かそうとしている。
	思考・判断・表現	ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活の維持と向上に役立っていることを考えたり、ごみの減量や資源の有効利用のために、生活の中で自分たちにできることを判断したりして、それらを適切に表現している。
	観察・資料活用	ごみの処理や有効利用に関わる施設を調査・見学したり、統計資料を活用したりして必要な情報を集め、ごみの処理や有効利用の様子やそれらが計画的、協力的に進められ

	の技能	ていることを読み取って、作品にまとめている。	
	知識・理解	ごみの処理や有効利用は自分たちの生活や産業を支える大切な取組であり、これらの対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	
時間	過程	資料集「ぐんまくん」 で提示する主な項目	主な学習活動
第1時～第4時	つ か む		<ul style="list-style-type: none"> 家庭からどのようなごみが出されているのか思い起こす。 ごみの種類調べを始める。 1週間で家庭からどのようなごみが出るか予想する。
			<ul style="list-style-type: none"> ごみ調べをした結果を見ながら、その種類など気付いたことを発表する。 自宅近くの収集場所を地図に書き入れる。
		・大切な言葉の説明「ごみの分別」	<ul style="list-style-type: none"> 実物を使って、ごみを具体的に分別する。 なぜ分別してごみを出すようにしているのか考える。 資料を参考にして藤岡市のごみの出し方の種類を考える。
		・大切な言葉の説明「ごみ収集」	<ul style="list-style-type: none"> 地域の収集場所の地図を作り、効率のよい収集方法を考える。 なぜ集める日が違うのか、いくつに分けてごみを出すのか、集めたごみはどこに行くのかを考える。 ごみの収集について調べたことや考えたこと、学んで分かったことを文章に書く。 学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><学習課題>分けて集められたごみや資源は、どのようにして処理されたり、再利用されたりするのでしょうか。</p> </div>
第5時～第11時	追 究 す る		<ul style="list-style-type: none"> 清掃センター見学について話し合う。 清掃センターで聞きたいことを考え整理する。
			<ul style="list-style-type: none"> 見学したり質問したりして分かったことをメモしながら清掃センターを見学する。 クリーンセンターについて知る。(2時間)
			<ul style="list-style-type: none"> 清掃センターで見学したことを基に、燃やせるごみがどのように処理されているかをノートにまとめる。 なぜごみの収集を有料化する地域があるのか理由について話し合う。
		・大切な言葉の説明「リサイクル」	<ul style="list-style-type: none"> 清掃センターで見学したことを基に、資源ごみがどのように処理されているかをノートにまとめる。 リサイクルによる資源の有効利用について、その大切さを話し合う。
			<ul style="list-style-type: none"> 商店での買い物を例にとり、昔と今の比較をする。 昔と今のごみ処理の違いについて考える。 家で聞いたことを基に絵で表す。
		・群馬県の概要「群馬県のごみ処理」 ・群馬県の取組「ごみ処理の問題に対する群馬県の取組」	<ul style="list-style-type: none"> 資料集「ぐんまくん」を活用し、群馬県のごみやごみ処理の特色を調べる。 ごみ処理の問題を解決するために群馬県として進めている取組を調べる。 群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をしている理由を考える。

第12時～第13時	考え ・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にできること「ごみを減らすために人々がしていること」 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集「ぐんまくん」を活用し、ごみを減らすために人々が行っている取組の良いところを見いだす。 ・実現するためにはどのような工夫をすればよいかグループで話し合い、ごみを減らすために自分にできることを考える。 ・ごみを減らすために自分にできることをグループで紹介しながら意見交換する。 ・これまでに学習したことを振り返り、自分たちにできることを考え、話し合う。
			<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに調べたことを基に学習課題に対する答えやこの学習で学んだことを文章にまとめる。 ・学習課題に対する答えやこの学習で学んだことをグループで意見交換する。

<資料集「ぐんまくん」で提示する主な項目>

- 大切な言葉を説明している資料
- 群馬県のごみやごみ処理の概要の資料
- ごみ処理の問題に対する群馬県の取組の資料
- ごみを減らすために人々が行っている取組の資料

6 展開

(1) 11時間目／13時間

① ねらい

群馬県のごみやごみ処理の特色を調べ、群馬県がごみ処理の問題解決に向けた取組をしている理由を考察することができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート、

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 〈評価〉）
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学習課題>群馬県のごみやごみ処理について知り、ごみ処理の問題を解決するために進めている取組について考えよう。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・資料集を使って群馬県全体のごみやごみ処理は、どうなっているか考えよう。 		
2 資料集「ぐんまくん」を使いながら群馬県のごみやごみ処理について分かったことを探し、ワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県の人が出すごみの量は、一人1年当たり 383kg で都道府県別で四番目に多い。 ・群馬県のごみを処理する費用は、一人1年当たり 10286 円である。 	12	○資料の読み取りから群馬県全体のごみやごみ処理の特色をつかませる。
3 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。 4 意見交換したことを発表し、自分にない考えを加筆・修正する。	8	○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。

<p>5 資料集「ぐんまくん」を使いながらごみ処理の問題を解決するために群馬県が進めている取組を探し、分かったことや考えたことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県循環型社会づくり推進計画を作って、ごみを減らし、資源を利用することを積極的に進めようとしている。 ・一人一人が毎日の生活の中で3Rを行い、ごみを減らすためにぐんま3R宣言の取組を行っている。 ・群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をしなかったら、ごみが増え、汚れた町になってしまう。 ・群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をしているので、ごみが減り、住みよい暮らしをつくるのに役立っている。 <p>6 ワークシートに書いたことを発表し、自分にない考えを加筆・修正する。</p>	<p>14</p> <p>6</p>	<p>○群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をしなかったら自分たちの暮らしはどうか考えることを通して、群馬県がごみ処理の問題解決に向けて取り組んでいる理由に目を向けさせる。</p> <p>◎記述が進まない児童には、群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をすると、どんな良いことがあるか考えさせ、記述を促す。</p> <p>○自分たちの住んでいる地域のごみ処理の事業について調べたことと群馬県の様子や取組を比較・関連付けながら考えるよう促す。</p> <p>○クラス全体での発表で、自分と友達の考えを比較させ、自分にない考えに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇群馬県がごみ処理の問題解決に向けて取り組んでいる理由を考え、ワークシートに書いている。(ワークシート) 【思考・判断・表現】</p> </div>
<p>7 学習のまとめをし、次時の学習を知る。</p>	<p>3</p>	<p>○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。</p> <p>○次時に、ごみを減らすために自分にできることを考える学習をすることを伝える。</p>

(2) 12時間目／13時間

① ねらい

根拠を明らかにしながらごみを減らすために自分にできることを考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。</p>	<p>2</p>	<p>○これまでに学習してきたことを基に具体的に記述するよう助言する。</p> <p>◎記述が進まない児童には、どのようにして自分たちが出したごみが処理されたのかを思い出させ、それを基に書くよう助言する。</p>
<p><学習課題>ごみを減らすために、自分にできることを考えよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・資料集を使ってどんなことが自分にできるか考えよう。 		
<p>2 なぜごみを減らすべきなのか理由を考え、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみを減らさないと、資源が足りなくなるから。 ・ごみが減ると、クリーンセンターを長く使うことができるから。 ・ごみが減ると、ごみを処理する費用が少なくなり、その分違うことにお金を使うことができるから。 	<p>7</p>	<p>○これまでに学習してきたことを基に具体的に記述するよう助言する。</p> <p>◎記述が進まない児童には、どのようにして自分たちが出したごみが処理されたのかを思い出させ、それを基に書くよう助言する。</p>

3	ワークシートに書いたことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。		○クラス全体での発表で、自分と友達の考えを比較させ、自分にはない考えに気付かせる。
4	資料集「ぐんまくん」を使いながらごみを減らすために人々が行っている取組の良いところや大変なところを考え、ワークシートに書く。	16	
5	ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。	10	○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。
6	意見交換したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。		
7	ごみを減らすために自分にできることを考え、ワークシートに書く。	7	○ごみを減らすための方策について実現するための工夫も書かせ、自分なりのプランを考えさせる。 ○自分たちの住んでいる地域のごみ処理の事業について調べたことと地域の人々が行っている取組を比較・関連付けながら考えるよう促す。 ○ごみを減らすために自分にできることを考える活動を通して、自分自身も実践していこうとする意識を持たせる。
8	ワークシートに書いたことを発表する。		◇明確な根拠（実現可能性）を示しながらごみを減らすために自分にできることを考え、ワークシートに書いている。（ワークシート）【思考・判断・表現】
9	学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に、単元を貫く学習課題の答えを導き出す学習をすることを伝える。

(3) 13時間目／13時間

① ねらい

ごみの処理に関わる対策や事業がどのように行われているかを理解することができる。

ごみを処理するための対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の向上に役立っていることを考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<学習課題>「住みよいくらしとごみ」の学習の学習課題の答えをまとめ、友だちに説明しよう。		
・これまで学習してきたことを基に答えをまとめ、説明しよう。		○単元を貫く学習課題の内容を確認し、どのように追究すればよいかの見通しを具体的に持たせる。

<p>2 学習課題の答えや学習をして学んだことをワークシートに書く。</p>	<p>25</p>	<p>○これまでに調べ記入してきたワークシートを基に学習課題の答えを導き出し、ワークシートにまとめるよう指示する。 ◎記述が進まない児童には、実際に調べた燃やせるごみ、資源ごみは、それぞれどのように処理されているかをワークシートから探し、書くよう促す。</p>
<p>3 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。</p> <p>4 意見交換したことを発表し、自分にない考えを加筆・修正する。</p> <p>・住みよいくらしとごみの学習をして、燃やせるごみは、清掃センターで燃やして処理され、資源ごみは、再利用され、資源の節約に役立っていることが分かった。ごみを処理するための様々な取組は、計画的・協力的に進められ、人々の住みよい暮らしをつくるために役立っている。これからは、ごみを減らしたり、3Rに協力したりしたい。</p>	<p>15</p>	<p>○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇分けて集められたごみや資源がどのように処理・再利用されているかを理解し、ワークシートに書いている。(ワークシート)【知識・理解】</p> </div>
<p>5 学習のまとめをする。</p>	<p>3</p>	<p>○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。</p>